めいろうこどもえん　9月園だより

２０２２年度　年主題〈つながって～今、私を生きる～〉

0･1･2歳児９月主題　「のびのびと」

月のねがい

◎お祈りや讃美歌を歌う姿を見てまねようとする(0)
◎保育者と一緒に空の雲をみたり虫の声を聞いたりする(0)
◎興味の幅が広がりのびのびと身体を動かす(0)
◎讃美歌や聖書のお話に親しむ(1.2)
◎保育者との関係が深まって、遊びや応答を楽しむ(1.2)

3･4･5歳児９月主題　「のびやかに」

月のねがい

◎礼拝、祈り、讃美歌を通して心を動かす(3)
◎好きな遊びを通して気持ちの合う友だちと出会い、心も体ものびやかに過ごす(3)
◎空や風、虫など身近な事柄を通して季節の移り変わりを感じる(3)
◎礼拝の時を大切に思い、聖書の話に心動かして聞く(4.5)
◎友だちと一緒にいることや、友だちとイメージを共有して遊ぶことを愉快だと感じる(4.5)

今月の聖句

「平和をつくるものは幸いです。」　マタイ5:9

今月の聖句に選ばれている詩篇第３１篇は、人が受ける悩みや苦しみ、この世にある矛盾に直面する中で生まれた詩です。つまり、「何故この世に悪があるのか、神がおられるのに何故なのか」という矛盾です。世の中にはすぐには答えの出ない問題が沢山あります。人生経験を積んでも、答えが出ないものもあります。ヴィクトール・フランクルはユダヤ人強制収容所の体験を述べた「夜と霧」の中で報告します。「鉄条網の中で、夕焼けを綺麗だ、と見上げることができた人間が生き残った」と。どのような状況下にあろうと、絶望しない力こそ生きる力を与える恵みだと言っているのです。「あなたの恵みを私は楽しみ喜びます」という詩篇の言葉も、実はそういう中から生まれた希望の言葉なのです。

誰しも好きこのんで病や苦しみを欲しがる人はいません。けれども、不可抗力的にそれらが降りかかってくる時があるのです。河野進という牧師は、次のような詩を書きました。「病まなければ、ささげ得ない祈りがある。病まなければ、信じ得ない奇跡がある。病まなければ、聞き得ない御言葉がある。病まなければ、近づき得ない聖所がある。病まなければ、仰ぎ得ない御顔がある。おお、病まなければ、私は人間でさえもあり得ない」。この「病む」という言葉を「苦しむ」に置き換えた時、「おお、苦しまなければ、私は人間でさえもあり得ない」と読む時、私たちは詩編37篇の心が理解できます。苦しむこと、悩むこと、何らかの壁にぶつかっても、そのことを通して、私たちは生きる力を得る、人として成長し続けるのです。協力牧師　池田基宣

９月の行事予定

1日	（木）	始園式（1号:午前保育）
5日	（月）	８・９月誕生会
8日	（木）	シオン米脱穀(年中長児)
21日	（水）	運動会実行委員会（P役,長・副）
22日	（木）	運動会予行練習・弁当日
27日	（火）	いもほり
28日	（水）	市民体育館練習日・弁当日

１０月の行事予定

1日	（土）	運動会（雨天時:市民体育館）
2日	（日）	運動会予備日(雨天時:種子高体育館)
3日	（月）	振替休日
7日	（金）	実りの秋パーティー
12日	（水）	牛見学
18日	（火）	10,11月誕生会＆試食会
27日	（木）	すもう大会（2,3歳児）
28日	（金）	すもう大会(年長･年中)弁当日

利用料見直しのお知らせ

現在の利用料額は，R2.1~12 期の所得額によって算定されております。R3.1~R3.12 期の市民税額における階層の変動に伴い，市による利用料の見直しが行われます。

９月分より保育料が変更になる世帯もありますので、市より送付の利用料決定通知書でご確認下さい。

濃厚接触者の対応について

現在、園児にコロナの陽性者が報告された場合、関係園児は濃厚接触者として５日間の行動制限の対象になっております。保護者の皆さまのお仕事にも影響があるかと思いますが、今後ともご理解ご協力のほど宜しくお願い致します。

２２世紀を生きていく子どもたちを育てる！！

コロナウィルスの感染拡大で、楽しいことがなかなかできなかったことかと思います。夏休み期間中の自粛のご協力もありがとうございました。

夏休みが始まってすぐに、県内の幼稚園研修会が行われました。今年もリモートでの研修となりましたが、興味深い話をたくさん聞くことができました。その中で１番心に響いたのが、これからの激動の時代を生きていくために子どもたちに必要なことは、タフで賢い人間に育てること！という言葉でした。

今はスマホ一つでなんでも情報収集できる時代です。その情報に惑わされることなく、自分で生きる術を模索することが大切だと言われます。また、「これが好きだ!」「これが楽しい!」という充実した状態を幼児期の没入（夢中になる）体験といいますが、この体験をしていない子どもが増えているのだそうです。体得した知識や技能を遊びや生活の中で使いながらこの体験を重ねていきます。そこで芽生えた探究心を持ち続けることで自分をも変容させ、生きる力へと変えていくのだそうです。この没入体験をするしないで、今後の成長に大きな分岐点ができるということを聞いて、とても危機感を覚えています。

それは取りも直さず、子どもたちの人生において大切な時期に関わる私たち大人は、まことに責任重大というわけです。子どもたちの発信を見逃すことなく、可能な限りいろいろな体験をさせてあげたいものです。

さあ！一年の内で一番多く行事や活動を経験する２学期です。保護者の皆さまには、ご協力頂くことが多々あるかと思いますが、何卒ご協力のほどよろしくお願い致します。

森山

～稲刈り～

～秋の大運動会～

～シオン米脱穀～

いもほり

非認知能力が育つ家庭の「ルール」

七月まではそこそこ落ち着いていた本園のコロナ感染でしたが、八月は幾度か子どもたちや職員の陽性が判明し、その度に自粛休園をお願いして、大変ご迷惑をお掛けいたしました。いよいよ大きな行事の多い二学期です。一つ一つの行事が工夫を重ねて、無事に実施できることを願っています。

最近の小学生は、放課後は何をして過ごしているのでしょう。友だちと一緒に遊んでいるんでしょうか。帰宅してランドセルを投げて、暗くなるまで遊びまくっていた身としては、大いに気になるところです。本学園が運営している児童クラブにもたくさんの児童たちが通所してきます。「宿題が終わらないと遊べません」なんてルールは特にありませんが、みんなしっかり済ませてから、おやつを食べたり遊んでいるようです。その後、園庭で無心に遊んでいる姿を見ていると、こども園の時と変わらず、我を忘れて遊ぶ姿が愛おしいです。

先日、研修講演の中で紹介された本、ボーク重子著『「非認知能力」の育て方』が、何となく面白そうだったので読んでみました。「非認知能力」については、この欄でも幾度となく取り上げてきましたが、常に「非認知能力」を高めることを意識した子育てを実践してきた方は初めてで、大いに興味が湧きました。具体的な家庭での取り組み方が分かりやすい言葉で綴ってあったので、皆さまにもお薦めです。

非認知能力を伸ばすために、家庭で取り組んでいる実践として以下のことが示してあります。①家庭のルールづくり②豊かな対話とコミュニケーション③思う存分遊ばせる④子どもと自分を受け入れる⑤「好き」を見つけることです。その中でも、日常生活で育まれる非認知能力の土台となるのは「ルールを守ること」とありました。以下の五つがその効果です。①自信と達成感が得られる：小さな達成感の積み重ねが自己肯定感を育む。②子どもが小さな頃から始めれば、良い習慣になる：習慣は幼ければ幼いほどその人の人生に定着する。③子どもの自主性が育つ：親からの押しつけではなく、家族全員で決め実行することで、自ら守ろうとする責任感が育つ。④コミュニティの一員になる訓練になる：家族の共同作業としてのルールなので、家族の一員として自覚しやすくなる⑤一度ルールを決めたら、親がいちいち迷わずに済む：親も人間。気分によって寛容になったり不寛容になったりするので、基本がぶれないので結論はシンプル。⑥自制心を鍛えることができる。：家族の役割としてルールを守っている自覚が、我慢の心を育てている。自分で決めたルールは、窮屈に縛られるものではなく、自由な心を育むツールです。

様々な行事も、状況によっては短縮や中止を余儀なくされるかも知れません。職員一同で知恵を絞り、出来る限りの環境を整えて経験を担保していきたいと願っております。残暑が厳しい毎日ですが、そろそろ夏の疲れも出てくる頃です。早寝･早起き･朝ごはん･朝ウンチで、親子共々元気でいきましょう。行事の多い二学期も、引き続きご協力をお願い致します。

園長

コロナ禍における保育

～子どもたちの育ちで考えておきたいこと～

コロナ禍における生活も３年目に入りましたが、今まで以上に私たちの周りでも感染者が増え、自宅療養や、濃厚接触者として行動制限を余儀なくされる夏になりました。こども園の中でできることといったら、”換気、消毒、密を避ける”です。前２つは何とかなるものの、保育の現場は子どもとの密接な関わりが避けられるものではありません。この夏、保育者は、しっかりと覚悟を持って保育にあたりました。

例えば、子どもが泣きながら近づいてきたら、コロナ禍の状況であっても、子どもと目線を合わせて話を聞いてあげることが私たち保育者の仕事です。子どもは大人に身を寄せることで、精神的な安定を得るものです。子どもが求めてきたら、出来る限りそれに応えてあげるのが保育者の本分と心得ています。コロナ禍にあっても、共感的な関わりは欠かせないものだと改めて感じたところです。

また、子どもたちは、コロナ禍における問題に向かう大人の姿や言葉を目の当たりにしています。大人がネガティブな態度や発言を続けると、子どもたちは未来を暗いものと捉えてしまい、将来への希望が育まれにくくなるのではないかと心配しています。

確かにコロナの収束はなかなか難しいことですし、それ以外にも世界には様々な問題が山積しています。だからといって悲観的な側面ばかりに目を向けるのでは無く、自分達のできることを増やして、夢が実現できる喜びをたくさん感じていくことが大切ではないでしょうか。料理や片付けができるようになったり、植物を育ててみたりと、小さな体験を積み重ねることで、世界を少しずつ変えていける。子どもたちには、そうした感覚を育んでいってもらいたいと切に願っています。

私たち保育者も子どもたちの思いを形にしていけるよう創意工夫をしながら頑張っていきたいと思っております。２学期もどうぞよろしくお願い致します。

圖師　愛